

令和7年度 第3回二宮町政策評価委員会 議事要旨

開催日時	令和7年12月24日（水） 午後1:30～3:00	
開催場所	二宮町役場3階 第1委員会室	
出席者	委員	出席7名 大田 博樹 委員、帰山 訓 委員、荒木 雅幸 委員、 渋谷 佳代子 委員、井通 隆正 委員、上村 舞子 委員 川平 和代 委員 欠席0名
	町	企画政策担当参事、政策部長
	事務局	政策部企画政策課2名
傍聴者数	0名	
会議次第	1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 議事 (1) 二宮町行政評価の意見集約結果について (2) 二宮町行政評価の意見書（案）について (3) その他 4. 閉 会	
配布資料	資 料1 行政評価施策評価シート（令和6年度実績） 資 料2 二宮町行政評価について（意見書）（案） 参考資料1 広域・産官学で連携して実施している事業	

【議事要旨】

(1) 二宮町行政評価の意見集約結果について

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

施策1

総合計画：「公共施設の利便性、機能性を高めるまちづくり」

総合戦略：「公共施設のマネジメントと新たな魅力の創出」

- 今回追加した「どのような成果があったかを記載する」というコメントに違和感がある。前回の会議で委員長が言われた、「延べ床面積の削減により町民サービスや満足度の低下につながるのであれば、重点的方針のまちづくりと相反してしまうため、減らすことが目的ではなく、公共サービスの充実に向けた取り組みを進めるべき」という内容の方が外部評価として適切だと思う。
 - 延べ床面積削減の成果よりも、町民サービスと満足度の方が重要だと思う。
 - ◎「町民の満足度が上がるような取り組み」という視点を入れた内容へ修正すること。
 - 1 地区1 集会施設化については、行政のスリム化などのため取り組みを進めているところですが、慎重な検討が必要と感じています。
 - ◎地区ごとに集会所の役割が維持されているのであれば問題はなく、コストを削減するための取り組みに反対する町民はいないと思う。
 - 集会所の利用者である自治会や社協の了承を得て削減をしていくべきだと思う。
 - 必ず地区と話し合いを行い、合意が取れた施設から削減を進めています。
 - ここで言う公共施設とは、集会所だけでなく様々な施設を対象としており、前回の議論は、それらの施設を削減することで、町民サービスの低下に繋がるのではないかという話であったと思う。
 - 前回は温水プールについて、行政財産から普通財産になったことにより面積は削減したが、廃止により町民の満足度は下がってしまうのではないかという話が出ていた。町民の立場としては、利便性や機能性を高めるまちづくりを重点的方針として掲げているのであれば、面積を下げることに目を向けるのではなく、健康公園のような施設整備などにつながるような取り組みをしていただきたい。
 - ◎施設を再編することでコストを削減しつつ、町民の満足度を維持していかななくてはならない難しい内容であるが、その合意点を見出していくことがこの施策の趣旨のように感じる。
- コスト削減やスリム化等といった延べ床面積を下げたことによる成果だけではなく、町民の満足度がどのように上がったかを併せて成果として記載すること。

施策2

総合計画：「子どもの笑顔がかがやく、子育てと教育のまちづくり」

総合戦略：「特色ある教育活動の推進」

「妊娠から子育てまでの切れ目のない支援」

「仕事と子育ての両立支援」

意見なし

施策3

総合計画：「気候変動対策による持続可能なまちづくり」

総合戦略：「豊かな環境の保全と気候変動対策の充実」

意見なし

施策4

総合計画：「誰もが自分らしく安全・安心に暮らせるまちづくり」

総合戦略：「地域で支えあう体制の構築」

- 「地域活動に参加している人の割合」の3人に1人という基準値がそもそも低く、計画値に対する実績も低いことをもっと町民に伝わってほしいと思うが、「地域活動に関するKPIの目標値を見直す」という表現で伝わるのか。
- ◎具体的に、「3人に1人という目標が低いため、さらに高い計画値を設定すること」と修正すること。
- 二宮町は人とつながりやすいところが魅力であり、人とのつながりが地域活動への参加へ結びつき、町の魅力が広がっていくと思う。目標値を上げることにより町として危機感を持ってほしい。
- このKPIの実績は、町民1,000人に対するアンケートの結果であるとのことだが、自身の住んでいる地区だけを見ても、もう少し地域活動に参加している人が多い印象があるため、能動的に参加している人しか回答できていないなど、質問や測定方法が適切ではないように感じる。
- 「地域活動に参加していますか」と質問し、例としてボランティアや自治会活動等を記載していますが、特に若い世代などは、自治会への加入はしているものの地域活動に参加している認識がない可能性もあります。今後は質問を工夫する必要があるかもしれません。
- アンケートを回答した人は、積極的に町へ貢献しようという意識があり、しっかりと考えた上で回答している印象がある。その中でこの結果というのは、やはり低いのではないかと感じる。
- アンケートの内容としては、地域活動へ参加している場合は、具体的にどのような

ことをしているか、自治会、趣味・スポーツ、ボランティア、PTA、子ども会、社会福祉団体、老人会などの中から選んで答えていただくようになっています。

○地域のお祭りや90周年記念イベントへ行くことも地域活動への参加に含まれると思うが、その認識がない可能性がある。

○年に2回実施している一斉清掃には、ほとんどの家庭が参加している。地域活動の例として、そういったものも含めてもっと詳しく記載する必要があると思う。

町内会の役員として、町が、地域活動に参加がしやすい仕組みづくりの支援に取り組むことに期待をしている。

◎自治会の主体は町民であり、行政が関与できない部分はあると思う。

アンケート項目にさらに具体的な活動を記載することを参考として提案する。なお、お祭りなどのイベントに関しては、参加するだけでなく、「賑わいに貢献した」等のコメントを入れる必要があると思う。

外部評価の意見としては、「アンケートの質問項目を再検討する」というコメントを追加すること。

施策5

総合計画：「活力があふれる、選ばれるまちづくり」

総合戦略：「二宮らしい魅力の創出と発信」

「地域商工業の活性化」

「地域農林業の活性化」

○住民と一体となった取り組みとして、「二宮ブランド」と「こどもたちを中心とした文化振興事業」を一緒にすることに違和感がある。二宮ブランドは、「認知度は向上しているが、目標値には達成していない」といった、認知度に関することを別に記載すべき。

○文化振興事業に関するKPIを設定するとよいと思う。

○KPIを設定するのであれば、町の文化祭などといったイベントの参加人数、参加団体数が想定できる。

◎「二宮ブランドの認知度は改善の余地がある」、「こどもたちを中心とした文化振興事業は評価できるが、今後参加人数などのKPIを追加する必要がある」と文章を2つに分けて記載すること。

施策6

総合計画：「新しい時代に向けて、しなやかに対応するまちづくり」

総合戦略：「デジタル技術による行政サービスの向上」

◎自治体間の広域連携とは何か。

●例としては、平塚市、大磯町、二宮町それぞれの市町が役割を持ち、広域でごみ処

理の効率化を図っているもので、平塚市が事務局を務め、2町は市へ職員を派遣しています。

また、消防の取り組みとしては、平塚市に共同消防指令センターを設置し、平塚市、大磯町、二宮町の119番通報を一括受信して、各消防署に出動指令を行っています。

(2) 二宮町行政評価の意見書(案)について

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

○意見書の書き方として、1つ目、2つ目と説明が続くが、前段の部分や、施策評価シートとの対応が分かりづらいため、「1つ目の施策1」「2つ目の施策2」とした方がよい。

また、連携事業に関して、他の自治体との連携も多いので、「他自治体等」の連携を追加した方が、より実態に即した内容になると思う。

◎該当する部分を「企業や学校法人、他自治体等」へ修正すること。

○何をもちいて小中一貫校と言えるのか疑問を感じている。現状、にのみや学園として、年に一度の小学校交流会、オンラインによる各小学校の新年度挨拶、中学校見学、部活動体験等が行われている程度である。情報発信の現状と具体的な年間プログラムのようものを示してもらいたい。

●主に各小学校のカリキュラムの統一や授業の見直し、小学校と中学校の先生の連携等が挙げられます。先生の立場としても、子供たちの学びの過程を小学校で区切らず、中学校のことまで知るだけでカリキュラムに大きく影響するようです。

○2つ目の「子どもの笑顔がかがやく、子育てと教育のまちづくり」の説明の中で、中学校の部活動の問題について、現場の具体的な意見として入れてもらいたい。施策評価シートの外部評価にある「部活動の拠点校方式における学校間の調整が不十分」という文章を意見書へ入れるのはどうか。

◎部活動の問題について、解決方法はあるのか。

○自転車とバスの利用許可、サポートによる送迎等、移動手段の検討が必要だと思う。

●移動手段があれば部活動に参加する生徒は増えるということでしょうか。

○送り迎えが難しい家庭も多く、移動手段がないために諦めた生徒がいるのが現状。

○せっかく拠点校方式ができるのであれば、改善策を練るべきだと思う。

◎小中一貫校に関しては、取り組み過程にあるという表現も含めるため、「小中一貫教育をさらに進めるとともに認知度向上のためのわかりやすい情報発信」へ修正すること。また、重点的方針に「子どもの笑顔がかがやく」とあり、子どもたちが希望する部活動に取り組めるよう支援していくということが重要であることから、「部活動の拠点校方式における学校間の調整が不十分」を意見書へ追加すること。

◎それでは、事務局はこれまでの意見を取りまとめ、意見書へ反映すること。

●本日が最後の委員会になりますので、修正後の最終調整については委員長の一任とさせていただきますようお願いいたします。

(異議なし)

(3) その他

- 意見書はいつ頃町長へ提示する予定か。また関係各部への共有はいつ頃になるのか。
- 町の最終方針を決めるための会議を1月から2月に予定しております。結果は、年度内に各部へも共有し、次年度より方針に基づき取り組みを進めたいと考えています。
- これまでは、会議を年度末に行い、委員会の意見が反映されるのが2年後だったことから、以前と比較してかなり改善されている。資料についても、委員会で出された意見に対し具体的に回答・対応がされるようになっている点が評価できるので、今後もこの体制を継続できるようにしてほしい。

【以 上】